

看護だより

NURSE

平成20年9月5日

猛暑が続いた8月が過ぎ、ようやく暑さも落ち着いてきました。
多くの学生は夏休みが終わり、2学期が始まっています。
皆さんも今年後半、新たな気持ちでスタートしましょう。



研修報告



「管理者に必要なメンタルヘルス」研修会に参加して

平成20年7月7日 5階病棟 亀井 弥生

現在うつ病の現状は、「30代うつ」という言葉があるように20～30代の若者に増えているそうです。このうつ病は、「うつ病です」と自分から言うタイプで、一般的にわがまま、社会人といっていないといわれているような人です。こんな都合のいい病気ですが、病気かなという目も持っていないといけないことがわかりました。この研修でスタッフのメンタル部分の調節も主任業務の一つであると再認識できました。スタッフとのコミュニケーションを十分に取って問題に早く気づき対応する事でストレスは少なくすることができます。また、ほめる事が大切でやる気が出る・たのしく仕事ができる効果があります。しかし、ストレスのない環境はないのだから多少のストレス忍耐力を養うようみなさんも努力してください。

「摂食・嚥下障害看護研修会」に参加して

平成20年7月9日 西4階病棟 峰松 稚菜

摂食・嚥下障害患者に対する看護の役割として、最も重要な事は、患者様の原疾患過程の中で嚥下障害を捉える必要がある。つまり、私達看護師は患者様の近くにおいて、患者様の異変に真っ先に気づき、Dr.・STへの橋渡し役となる事である。これは、嚥下障害に対するアプローチの第一歩になる。入院されている患者様は『嚥下機能の回復』と『嚥下機能の維持』が必要である。これらを行っていく為にはまず、嚥下状態・原疾患を知り、アセスメントを行う。そして、その人に合わせた嚥下訓練を行っていく必要がある。また、嚥下障害からの誤嚥を防ぐための働きかけも忘れてはならない。今回の研修で学んだ多くの事を職場のスタッフと共有し、今後の看護に生かしていきたい。

「感染管理の基礎研修会」に参加して

平成20年7月14日 中央処置室 小野 由美

今までは感染という事について特別に重要視していなかった。しかし今回の講義の中で、院内感染の中では1番目に多いのは尿路感染、その中でも8割以上が尿道カテーテル由来からによるものという事を知った。現在泌尿器科勤務であり尿道カテーテル留置においては、日常的に行われる処置である。改めて身近な処置で容易に感染してしまう恐ろしさを痛感した。感染は様々な感染経路があるが、私達看護者として最低限予防していかなければならないことは、私達自身が感染経路にならないことである。感染源となる対象物は全部が目に見えてわかる物ではなく、細菌によって潜伏期間は異なり1ヶ月を要するものもある。そのため、日常からスタンダードプリコーションを全ての患者に適応して、患者も守り、自分も守ることが大切であると思った。